

(様式1)

平成21年度 京都府立向陽高等学校 学校経営計画 (スクールマネジメントプラン) (計画段階・実施段階)

学校経営方針 (中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点 (短期経営目標)			
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地域社会から信頼され、期待される魅力ある学校づくりのため、類・類型・コースの特色を生かした教育の推進を図る。</li> <li>○ 命を大切に作る心、他人を思いやる心など、心豊かな人間の育成を目指す。</li> <li>○ 部活と学習の両輪がかみ合い、生徒が充実感をもって高校生活を送れる学校の経営を目指す。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生徒の学力向上を図るため、授業時数の確保をする中で授業重視の教科指導を行なっている。また、土曜学習、課外の補習、学習合宿などを計画的に行い、90%以上の生徒が希望進路の実現を果たした。一方、家庭学習時間の減少や学習意欲の低下は歯止めがかかっておらず、生徒一人一人に、粘り強く可能性を引き出す指導を行う必要がある。</li> <li>○ 規律ある生活習慣の確立のため、重点指導期間を定期的に設定した。また、遅刻・服装等の指導を行い、一定の成果は見られた。自転車マナーについては改善しておらず、家庭や地域、関係機関との連携を図り、指導を続ける必要がある。</li> <li>○ 活発な部活動を背景として、元気な教育活動が実施できているが、加入率は低下する傾向にあり、学校そのものを充実させるためにも更に部活動の活性化を図る必要がある。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地域社会に根ざした学校づくりを進めるため、高大連携や中高連携を活性化させる。</li> <li>○ 地域から信頼される学校づくりを更に進めるため、全教職員が一致した生徒指導を徹底し、落ち着いた教育環境づくりを行う。</li> <li>○ 類・類型・コースの特色を生かした学力の向上と希望進路の実現を図るため、更に責任ある指導体制を充実させる。</li> <li>○ III類の募集停止と府高芸文連の事務局の設置を契機として、部活発信の拠点校として体制を整え、部活、勉学ともに励む生徒の育成を目指す。</li> </ul>			
評価領域	重点目標	具体的方策		評価		成果と課題	
組織・運営	各種会議を効率的・機能的に実施できる体制を築く。	(1) 具体的課題について常に各分掌で協議検討する。 (2) 各分掌間や教科間の連携を深める取組を行う。		B	C	C	連携した取組を一層進める。
教育課程	類・類型の特色ある教育課程を編成する。	(3) 教育目標に基づき、類・類型等の特色を生かした教育課程を編成する。 (4) 生徒の興味・関心・進路希望に対応した教育課程を編成する。		C	C	C	新学習指導要領の趣旨を活かした教育課程の編成を推進する。
	総合的な学習の時間を充実する。	(5) 学習内容や実施方法について改善を図る。		C			
学習指導	基礎・基本を徹底し、個に応じた積極的な指導により学力の伸長を図る。	(6) 授業規律を維持し、50分間の授業に集中させる。 (7) 基礎・基本を徹底し、基礎学力の定着を図る。 (8) 生徒の特性に応じて指導方法の改善を図り、個に応じた指導を行う。		B	C	C	基礎・基本の徹底を図るため、指導内容の精選や指導方法の改善に努めた。
	自学自習の姿勢を確立する。	(9) 課題学習の内容等を改善し、家庭学習時間の充実を図る指導を進める。 (10) 生徒・保護者に全教科のシラバス(年間指導計画)を提示し、自発的学習を啓発する。		C			
	高大連携等の充実を図る。	(11) 高大連携や社会人講師による事業を充実し、効果的に実施する。		B			
特別活動	主体的・自立的な生徒の育成に努める。	(12) 年間指導計画に基づいたHR活動を実施し、生徒の主体的な活動を育成する。 (13) 部活動の活性化を図るとともに、学習との両立を指導・啓発する。 (14) 生徒会活動の充実を図る。		B	C	C	向陽祭では各学年とも意欲的な取組ができた。
生徒指導	基本的な生活習慣の確立を図り、心豊かな人間の育成に努める。	(15) 挨拶の励行に努めるとともに、欠席・遅刻・早退、服装や頭髪の乱れ等の防止のための指導を徹底する。		C		C	身だしなみを含め基本的な生活習慣の確立を目指し粘り強く指導を進める。
		(16) 問題行動や不適応行動等について、生徒の実態を把握し、未然に防ぐとともに、迅速な対応と適切な指導を行う。		B			
		(17) 交通安全指導を推進する。		C			

評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
進路指導	生徒・保護者・地域のニーズに応える進路指導を行う。	(18) 教科・学年・家庭等との連携を深め、進路希望を明確にするとともに学習習慣の定着に努める。 (19) 進路補習や土曜学習、学習合宿等の学力充実対策を二層効果的に行う。 (20) 実力テストや模擬試験への受験を促し、その結果を効果的に活用する。 (21) 高大連携などの機会を積極的に活用し、進路意識を高めるとともに目標を明確化する指導を行う。	C B C C	C	C	各学年の目標に応じて、教科や関係分掌と連携が図られ、組織的な指導が進められた。
人権教育	人権教育の推進と充実に努める。	(22) 生徒一人一人の課題に応じたきめ細やかな指導を推進する。 (23) 人権尊重の精神と他人を思いやる心を育成する。 (24) 同和問題をはじめとするさまざまな人権教育を推進する。	B B B	B	B	学年毎に、人権感覚を育む取組を実施できた。
環境教育	環境教育の推進と充実に努める。	(25) ゴミの分別・減量化や日常の清掃を徹底させ、学習環境を整えるとともに、環境問題に対する意識の高揚を図る。	C	C	C	夏季にパック類のポイ捨てが目立った。
健康・安全	健康・安全教育を推進する。	(26) 特別支援教育体制の推進のため、校内組織を整え、地域とのネットワークを密にする。 (27) 生徒の悩みに対して適切に対応できるよう、教育相談活動（カウンセリングなど）を推進する。	C B	B	B	スクールカウンセラーの助言を受け、適切に相談活動を実施できた。
学校図書館	生徒の読書意欲を高め、図書館の活用を図る。	(28) 生徒が利用したくなるような図書館づくりに努める。 (29) 図書館利用を促す広報活動を活発にして、図書館の活用を啓発する。	B B	B	B	幅広く読書を啓発する取組を実施した。
研究・研修	学校組織としての教育力の向上を図る。	(30) 課題解決や指導力向上に向けた校内研修を計画的・組織的に実施する。 (31) 教職員は自己の使命と責任を自覚して、研修成果を実践に活かす。	C C	C	C	外部専門機関との連携を図ることができた。
危機管理	施設・設備管理を充実する。 文書・情報管理を徹底する。	(32) 危機管理体制に万全を期し、問題事象に迅速に対応する。 (33) 施設設備の安全管理を徹底するとともに、防犯・防災への意識を高める。 (34) 個人情報保護や情報管理を徹底する。	B B B	B	B	不審者情報が生徒に徹底するよう工夫に努めた。
家庭・地域社会との連携	開かれた学校づくりを推進し、教育活動を積極的に公開する。	(35) 中高連携や教育活動の公開などを通して地域との連携を深める。 (36) 保護者説明会・クラス懇談会等を活用し、教育方針や教育活動等について説明責任を果たす。 (37) 学校紹介、広報紙の発行やホームページの充実に努め、広報活動を拡充する。	C B B	B	B	広報紙「輝け今日よ」（地域版）やホームページの更新に努めた。
次年度への改善の方向性	生徒一人ひとりが気持ちよく学習や部活動などに励み進路希望を達成できるよう、学習環境（ソフト、ハード両面）の整備と充実に努め、地域から信頼され、府民から選ばれる学校づくりに努める。					